

July 13, 2021

【前日の為替概況】ドル円、主要3指数史上最高値更新で110.40円まで強含み

12日のニューヨーク外国為替市場でドル円は続伸。終値は110.37円と前営業日NY終値(110.14円)と比べて23銭程度のドル高水準だった。日本時間夕刻に一時109.98円と日通し安値を付ける場面もあったが、110円割れで下値の堅さを確認すると一転買い戻しが優勢に。欧州通貨やオセアニア通貨に対してドル高が進んだ影響も受けて、次第に強含んだ。米長期金利の指標である米10年債利回りが1.37%台まで上昇したことも円売り・ドル買いを促し、2時前に一時110.40円と日通し高値を付けた。米国株式相場が底堅く推移し、主要3指数が史上最高値を更新したことも相場の支援材料。

もともと、市場では13日の6月米消費者物価(CPI)や14日のパウエル米連邦準備理事会(FRB)議長の議会証言に注目が集まっており、一本調子で上昇する展開にはならなかった。

ユーロドルは3営業日ぶりに反落。終値は1.1861ドルと前営業日NY終値(1.1876ドル)と比べて0.0015ドル程度のユーロ安水準だった。デギンドス欧州中央銀行(ECB)副総裁が「インフレ見通しのリスクは上向き」としながらも、「景気刺激策の縮小は早急ではなく徐々に行うべき」とテーパリングに慎重な見方を示すとユーロ売り・ドル買いが先行。21時前に一時1.1836ドルと日通し安値を付けた。その後、ユーロ円の上昇につれた買いが入り一時1.1874ドル付近まで値を戻す場面もあったが、ユーロ豪ドルやユーロポンドなど一部ユーロクロスが下落した影響で上値は限られた。米長期金利の上昇も相場の重し。

なお、ECBは戦略見直しの結果を踏まえて、来週22日の定例理事会で金融政策の方向性を示す「フォワードガイダンス」を変更する方針だ。ラガルドECB総裁は一部通信社とのインタビューで「フォワードガイダンスは確実に再検討されるだろう」と述べたほか、テーパリングについては「話すには適切な時期ではない」と語っている。

ユーロ円は小幅ながら続伸。終値は130.92円と前営業日NY終値(130.80円)と比べて12銭程度のユーロ高水準。デギンドスECB副総裁の発言を受けて一時本日安値となる130.45円まで値を下げたものの、売り一巡後は買い戻しが優勢に。米国株が史上最高値を更新する中、投資家のリスク志向が改善し円売り・ユーロ買いが優勢となった。23時過ぎに一時130.99円と日通し高値を更新した。

ただ、NY午後には130円台後半で値動きが細った。今週予定の米重要イベントを前に大きな方向感が出にくい面もあったようだ。

【本日の東京為替見通し】中国6月の対米貿易黒字の増加傾向に要警戒か

本日の東京外国為替市場のドル円は、明日のパウエルFRB議長の議会証言を控えて動きづらい展開の中、中国6月の対米貿易黒字に注目する展開が予想される。

バイデン米政権は、通商面では、中国との対話を活発化させているものの、外交面では、新疆ウイグル自治区や香港の人権問題、南シナ海や台湾を巡る安全保障上の対立が激化しつつある。バイデン米政権は、これまで「香港自治法」、「ウイグル人権政策法」、「香港人権・民主主義法案」、そして「戦略的競争法」などの対中制裁法案を打ち出してきた。先週は、バイデン米政権が中国の23の企業・団体が人権侵害や軍との関係を理由に経済ブラックリスト(エンティティ・リスト)に加えたことで、中国政府は「断固反対する」と表明し、正当な権利と利益を守るために必要な措置を講じると強調した。

現状の米中通商関係は、今年末まで、トランプ前米政権が署名した米中通商合意第1弾の下で行われているものの、中国の1-5月の対米貿易黒字は1324.6億ドルと拡大基調にある。対米貿易黒字は、3月が213.7億ドル、4月が281.1億ドル、5月は317.8億ドルと拡大傾向にあり、6月の対米貿易黒字に要注目となる。バイデン米政権は、2021年末に期限を迎えるのを前に、対中通商政策の見直しを進めており、米中貿易不均衡の拡大を受けて、米中貿易戦争が復活する可能性に要警戒となる。

ドル円のテクニカル分析では、陰線新安値4手で111.66円から109.53円まで下落した後、孕み線(インサイド・デイ)と2手連続陽線で、雲の上限の手前で反発している。本日は、3手連続陽線(赤三兵)で、一目・転換線110.60円や一目・基準線110.43円を上抜けるか否かに要注目となる。

本日のドル円のオーダー状況は、110.30円の本日のNYカットオプションを軸にして、上値には、110.40円、110.50円、110.60-00円にドル売りオーダーが控えている。下値には、109.80円、109.60円、109.50円にドル買いオーダー、割り込むとストップロス売りが控えている。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>
特になし

<海外>

- 08:01 ◇ 6月英小売連合（BRC）小売売上高調査
- 10:30 ◇ 6月豪 NAB 企業景況感指数
- 未定 ◎ 6月中国貿易収支（予想：442億ドルの黒字、2700億元の黒字）
- 15:00 ◎ 6月独消費者物価指数（CPI）改定値（予想：前月比0.4%／前年比2.3%）
- 15:00 ◎ 英中銀（BOE）、金融安定報告書を公表
- 15:30 ◇ 6月スイス生産者輸入価格
- 15:45 ◇ 6月仏 CPI 改定値（予想：前月比0.2%／前年比1.5%）
- 16:00 ◇ 5月トルコ鉱工業生産（予想：前月比▲0.4%）
- 16:30 ◎ ベイリー-BOE 総裁、記者会見
- 21:30 ☆ 6月米 CPI（予想：前月比0.5%／前年比4.9%）
☆ エネルギーと食品を除くコア指数（予想：前月比0.4%／前年比4.0%）
- 14日 02:00 ◎ 米財務省、30年債入札
- 14日 03:00 ◎ 6月米月次財政収支（予想：1940億ドルの赤字）
- 欧州連合（EU）財務相理事会

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

12日 17:08 オーストリア中銀

「2021年のインフレ率の予測を2.2%に修正」

「2022年、23年はインフレは抑制され、それぞれ2.0%と1.8%となると予測」

12日 18:13 デギンドス欧州中央銀行(ECB)副総裁

「インフレ見通しに対するリスクは上方向に傾いている」

「年末までインフレ率は上昇すると予想」

「成長に対するリスクはおおむね均衡していると見ているが、支援は不可欠」

「コロナ変異種の広がり、我々が安心すべきではないことを示している」

「来週の理事会では新たなフォワードガイダンスについて協議する」

「新たなフォワードガイダンスには、物価安定の新たな定義が含まれる」

「景気刺激策の縮小は、早急ではなく徐々に行うべき」

12日 19:12 バーキン米リッチモンド連銀総裁

米WSJとのインタビュー

「労働市場の回復に時間がかかれば、テーパリングは少し遅れる」

「労働市場が比較的早く目標をクリアできれば、テーパリングは早く実現できるかもしれない」

「ただし、今はまだ国債購入を止めるべき時期ではない」

13日 01:04 ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁

「米経済は実質的なさらなる進展に達していない」

「米住宅価格は非常に大幅に上昇し、株価は高水準にあるが、金融システムリスクについて懸念せず」

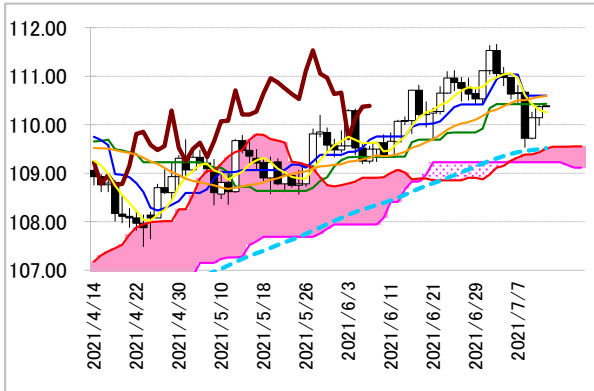
「経済再開による特定の分野での価格急上昇はあるものの、データを注意深く監視することが重要」

13日 03:07 マクロン仏大統領

「2021年の仏GDP見通しを従来の5%から6%に上方修正」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

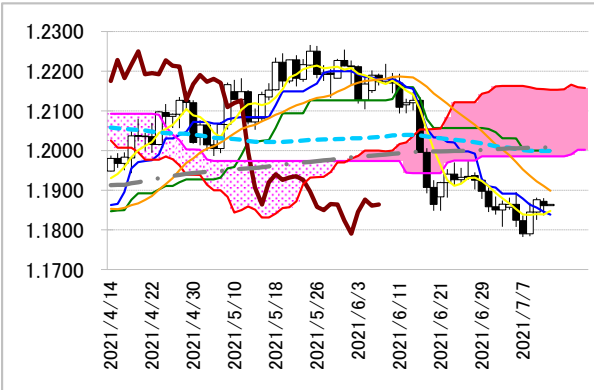


<ドル円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることから、三役好転の強い買いシグナルが点灯している。孕み線、2手連続陽線で反発しているものの、転換線を下回って引けていることから反落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	110.60(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	110.37
サポート1	109.51(日足一目均衡表・雲の上限)
サポート2	109.23(日足一目均衡表・雲の下限)

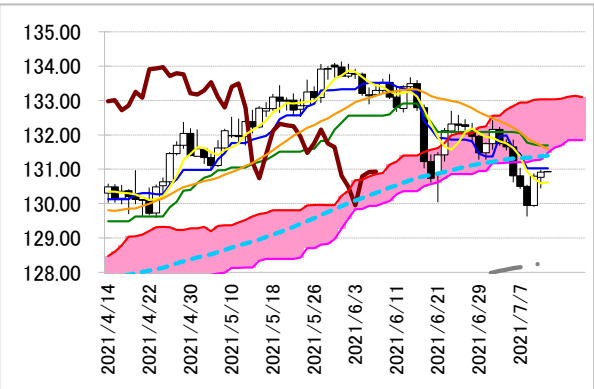


<ユーロドル＝7/7安値を支持に押し目買いスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることから、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。しかし、転換線を上回って引けていることから反発の可能性が示唆されている。

本日は、7/7の安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.1985(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	1.1861
サポート1	1.1782(7/7安値)

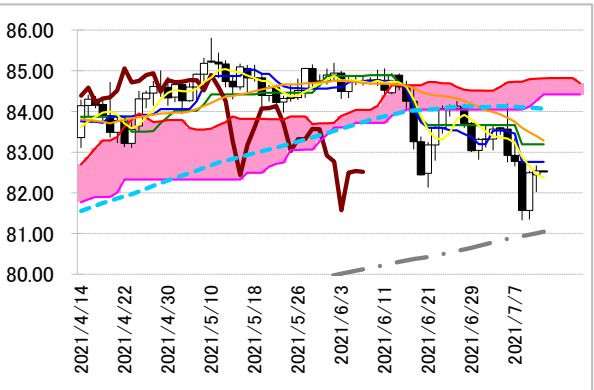


<ユーロ円＝雲の下限を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることから、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。2手連続陽線で反発しているものの、転換線を下回って引けていることから反落の可能性が示唆されている。

本日は、雲の下限を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	131.48(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	130.92
サポート1	129.63(7/8安値)



<豪ドル円＝基準線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることから、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。2手連続陽線で反発しているものの、転換線を下回って引けていることから反落の可能性が示唆されている。

本日は、基準線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	83.19(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	82.54
サポート1	81.35(7/9安値)

